大森市長の 大盛コラム

～“わくわくする”桃太郎のまち岡山の実現に向けて～



第25回 「新たな倭国論」の先駆けとなる金蔵山古墳が国指定史跡に

中区沢田に位置し、操山丘陵の上に築かれた金蔵山古墳が、新たに国指定史跡に指定されます。墳長158mの大型前方後円墳で、数多くの鉄器や家形、盾形、導水形などの形象埴輪が出土しています。4世紀後半に築かれたもので、同時期としては、中国、四国、九州地域で最大です。

なぜ、金蔵山古墳は吉備に築かれたのでしょうか？それは吉備の歴史をひもとくことで見えてきます。2世紀後半、弥生時代で最大の墳丘墓である楯築墳丘墓（倉敷市矢部）が吉備で築かれます。埴輪のご先祖である特殊器台もあり、古墳時代の起源が吉備にあったことを物語っています。

その後、纒向遺跡（奈良県桜井市）があるヤマトが隆盛を迎えます。纒向遺跡は邪馬台国の中心地とされており、巨大な前方後円墳が築かれ、墳丘上には吉備と同じ特殊器台形埴輪が並べられていることから、ヤマトは吉備の援助を受けたことで、一大勢力に発展したと考えられます。また、邪馬台国には狗奴国というライバルがいました。一説によると、狗奴国は前方後方墳を築く東海地域にあったとされています。邪馬台国は狗奴国を打倒し、3世紀後半には日本列島の中心勢力へ成長していきました。

一方、吉備は3世紀から4世紀にかけても大型古墳を築き続け、4世紀後半には金蔵山古墳を築きます。広島県の安芸高田市には金蔵山古墳を1／2に縮小した古墳も認められることから、4世紀後半の吉備は中国地域の覇者となり、5世紀には兵庫県以西を代表する勢力に飛躍したと考えられます。

最近の発掘調査で、造山古墳が5世紀初頭に築かれたことが分かりました。同時期のヤマトの大王墓と同規模です。この事実から、岡山市では5世紀初頭の倭国は、吉備とヤマトを中心とした豪族連合であったとする「新たな倭国論」を提唱しています。この説は、岡山市民の誇りになるとともに、観光誘客へ大きく寄与していくことでしょう。



▲金蔵山古墳レーザー測量図



▲導水形埴輪（金蔵山古墳出土）